

案件1 枚方市登録文化財（有形文化財）の候補について

1. 枚方市登録文化財制度について

市民の郷土への理解と愛着の増進を図ることを目的に、成立年代等の理由により指定には至らないものの、地域の歴史にとっては欠くことのできない文化財について、より幅広く、ゆるやかな文化財保護の網をかけていこうとするもの。

※ 参照：枚方市登録文化財要綱

2. 田能村直入と奥田家について

・田能村直入

文化11年（1814）豊後国直入郡竹田（現：大分県竹田市）の出身で、9歳の時に文人画家の田能村竹田に師事し、詩と絵画を学んだ。

天保5年（1834）、竹田とともに大坂に移り、大塩平八郎中斎の私塾「洗心洞」に入塾して陽明学を学ぶ。竹田の死後は、大坂・堺や京都を拠点に、文人画家として活躍し、明治40年（1907）に94歳で亡くなった。

画家としてだけではなく、明治11年に画学校の設立についての建白書を京都府に提出し、現在の京都市立芸術大学の前身である京都府画学校の初代摂理（校長）を務めたほか、明治24年には南宗画学校を設立するなど、後進の育成にも尽力し、関西の絵画界に大きな足跡を残した。

・奥田家

江戸時代に枚方宿の三矢村庄屋・宿役人を務め、淀川舟運の浜問屋や造り酒屋を営んでいた。当時の裕福な農民・町人には、家業の余暇に自らも書画を習って一流の文人と交流を持つ者が多くあり、奥田家の当主も直入が摂理（校長）を務めた京都府画学校に通っていた形跡がある。

3. 登録の趣旨

江戸～明治期の京街道沿いの裕福な農民・町人の生活文化をうかがわせる資料であり、登録して広く存在を周知することで新たな資料の発掘につながる可能性も期待できることから、枚方市が奥田家から寄贈を受けた田能村直入作の有形文化財4点について、枚方市登録文化財に登録しようとするもの。

4. 登録文化財の候補について

- ①「親鸞上人枕石図」
- ②「十六羅漢図」
- ③「佛説阿弥陀経」
- ④「仰山臨水楼瞩目図」

上記4点を一括で「(仮) 田能村直入関係資料（奥田家旧蔵）」として登録。

5. 各作品の概要について

①「親鸞上人枕石図」(枚方市所蔵)

形式	員数	サイズ(cm)	箱	作品画像
紙本	一幅	64.7×45	箱入	
詞書ほか				
<p>安政庚申春日沐浴焚香拜寫爲 中君囑釋尊七十七世法孫田癡</p>				

②「十六羅漢図」(枚方市所蔵)

形式	員数	サイズ(cm)	箱	作品画像
絹本	一幅	51.6×149.2	箱入	
詞書ほか				
<p>古人曰枯木寒巖三冬無一點暖氣予未識果然乎否 尊者以神通妙用功力明辨之則當得教三千 界中人悉皆生於極樂淨土若其不得然則唯宜 質諸觀世音菩薩 明治四年次重光協合至日寫 於仰山臨水樓爲 奥田賢契囑寫終有餘白 因併記乞政 釋尊七十七世法裔直入居士田癡拜</p>				

③「佛説阿彌陀經」(枚方市所蔵)

形式	員数	サイズ(cm)	箱	作品画像
紙本	一幅	48.2×147.5	箱入	
詞書ほか				
<p> (佛説阿彌陀經) 右姚秦三蔵法師鳩摩羅什奉詔譯 明治七歳甲戌冬日書於幽谷齋 釋尊七十七世法裔 直入居士田癡 </p>				

④「仰山臨水樓囑目図」(枚方市所蔵)

形式	員数	サイズ(cm)	箱	作品画像
紙本	一幅	110.8×44.8	箱入	
詞書ほか				
<p> 雨後倚江樓 緑陰過菁秋 日長閑野渡 無復客呼舟 明治七年六月十八日訪奥田雅契寫仰山陰水樓囑目併題 博主人一榮 直入山樵田癡 </p>				